

プレス発表資料

自治会主導による、e自警カメラ社会実験開始式： e自警カメラを活用した、 通学路の安全・安心の向上に関する取り組み

群馬大学理工学部
太田市西本町
NPO法人e自警ネットワーク研究会

※報道関係者様へ：

下記の通り、1月28日（水）にプレス発表を実施いたします。本内容の報道につきましては、プレス発表まで差し控えて頂きますよう、お願いいたします。

【プレス発表】

日時：2015年1月28日（水） 11:00～12:00

場所：西本町会館（〒373-0033 群馬県太田市西本町10-9）

概要：太田市西本町における地域社会の安全・安心の向上を目指して、8台の防犯カメラを町内の要所に設置します。この取り組みは、群馬大学理工学部藤井研究室、NPO法人e自警ネットワーク研究会が太田市西本町と協力して実施する社会実験として行われます。本取り組みを通して、e自警カメラを活用して、地域住民・通行人のプライバシーを高いレベルで守りつつ、通学路を24時間見守り、地域社会のこどもたちの安全・安心を飛躍的に高める。このことを、安価に、そして、手軽に実現できることを実証したモデルケースを作り、全国の地域社会の安全・安心の向上に貢献したいと願っています。

【報告内容】

- ・ e自警カメラ（＝プライバシー保護機能付き防犯カメラ）の特徴。
- ・ e自警カメラの設置状況・運用方法
- ・ 本取組により期待される効果

【役割】

- ・ アンケート調査、論文発表等の社会実験に係る部分の統括は、群馬大学理工学部の教員・学生らで構成される研究グループが、主導する。
- ・ 社会実験で使用するe自警カメラは、研究グループより無償提供される。
- ・ NPO法人e自警ネットワーク研究会は、本取組全体に対して、適宜、技術的な支援を行う。

【社会実験の概要】

社会実験においては、閑静な住宅街、通学路等の一般公共スペースへの防犯カメラの大量・高密度導入においてクリアすべき課題である、①プライバシー保護、②低コストを高いレベルで両立させたモデルケースを作り上げることを目指す。地域の安全のために、死角の無い見守りを実現し、かつ、徹底したプライバシー保護を実現することが可能である低コストな防犯カメラシステムを開発する試みは、世界的にも類例のない独創的なものである。社会実験の成果は、随時、プレス発表等を通じて全国に広報する。このe自警カメラを用いた地域の見守りを全国・全世界に普及させ、安全・安心な街を全国・全世界に広めていくことを目指す。

【カメラの設置箇所】

太田市西本町内に 8台

今回の通学路を見守るための防犯カメラを設置する取り組みは、全国的にも類例のない試みである。

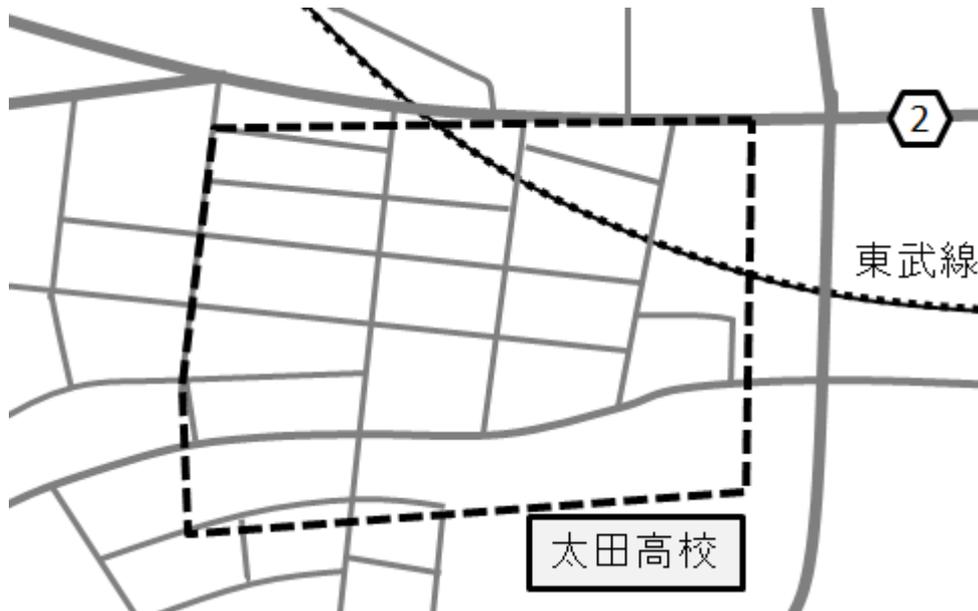


図1 e自警カメラの設置範囲

【e自警カメラの運用形態】

- ① 太田警察署が Key-A と Key-B の両方を持つ。
→専用ソフト eJKPlayer を用いて、暗号を完全解除し、鮮明な画像を閲覧可能.
- ② メンテナンス業者: Key-A のみを持つ
→専用ソフト eJKPlayer を用いて、不鮮明処理(モザイク化処理)された画像のみ閲覧可能.
- ③ 事件・事故が発生したときのみ、メンテナンス業者がカメラから SD カードを取り出して、必要なデータを捜査機関に提供する.

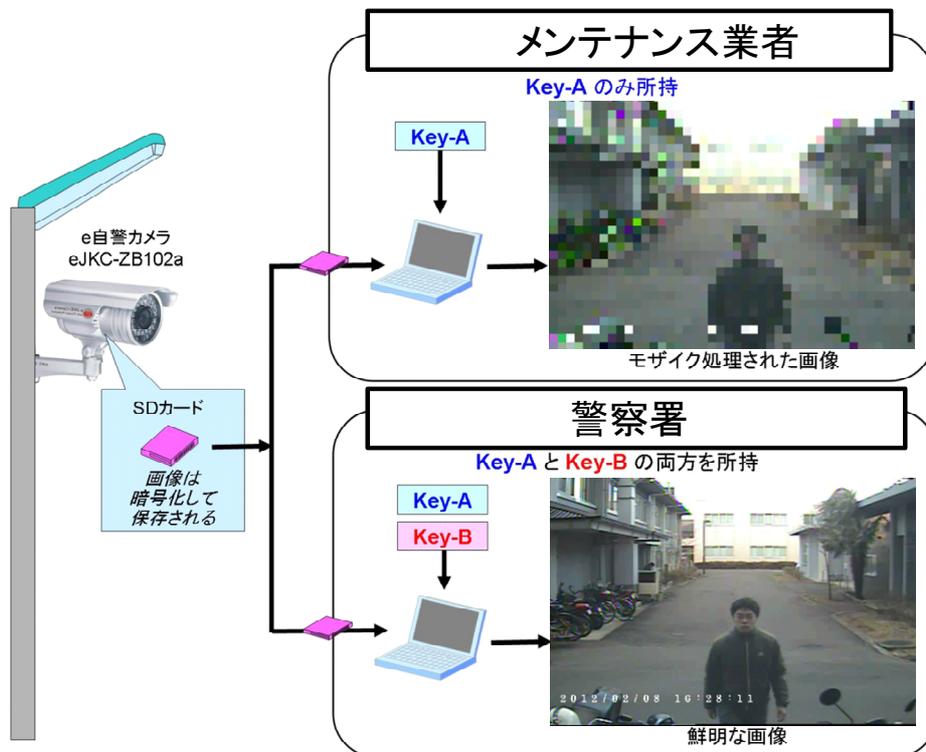


図2 e自警カメラの運用形態

【e自警カメラの特徴】

e自警カメラ(プライバシー保護機能付 all-in-one 型防犯カメラ)は、群馬大学と有限会社マツダ商事の共同研究の成果として生まれた。

- ① 画像は、2つのキー(Key-A と Key-B)により、暗号化されて内蔵 SD に保存される。
- ② 常時、最新の数日～1週間分の画像が上書き保存される。
- ③ AC100V の電源供給だけで動作開始。停電時は、電源回復後に自動復帰。
- ④ 街路灯への大量・高密度設置を想定して開発された。

【研究グループの活動の狙い】

近年、日本では、子供の誘拐、強盗、空き巣、痴漢等、多くの犯罪が発生している。これらの犯罪の多くが、閑静な住宅街、通学路、一般道路などで発生しているにも関わらず、目撃者が居ない場合が多く、問題となっている。この原因のひとつとして、日本の旧来の地域社会に存在していた良い意味での相互監視機能が失われていることが挙げられる。

一方、繁華街、中心市街地などの犯罪多発地域、犯罪捜査の上で重要な場所等において、行政等による防犯カメラ(CCTV カメラ)の設置が全国的に進んできている。しかしながら、これら従来型の CCTV カメラシステムでは、集中管理に伴う高コスト、プライバシー侵害の危険性への懸念・不快感などから、住宅街、一般道路等、犯罪の起こる確率が低い地域・場所への高密度な導入は、望めない状況である。**そのため、住宅街での事件で、目撃情報がないという事態が生じる。**

ごく最近になり、児童の安全を守るために、東京都、群馬県太田市、群馬県高崎市などの自治体が、小学校の通学路に防犯カメラを設置する計画を進めている。その際には、プライバシー保護の徹底、低コスト化が大きな検討課題となる。東京都の計画(1500校に対して合計6500台)でも、一校あたり僅か5台という超低密度な設置に留まる。

このような状況の下、我々は、近年急速に普及した情報技術(IT: Information Technology)を利他主義に基づいて市民が使うことにより、地域社会の安全性を向上させようとする考え方「**e 自警ネットワーク**」を提案し、この考え方を普及させるために群馬大学工学部内に NPO 法人 e 自警ネットワーク研究会(<http://www.e-jikei.org>)を設立し、啓発・普及活動、研究開発に取り組んできた。e 自警ネットワークは、次の2つの基本コンセプトより構成される。

コンセプトA：科学技術を活用し、一般市民が、身の回りを確実に見守る社会の実現。

コンセプトB：暗号化保存等による、一般市民のプライバシーの確実な保護の実現。

「市民の協力により、市街地の隅々まで見守られる社会」を、広く普及した科学技術で実現しようというのが、e 自警ネットワークの1番目のコンセプト(コンセプトA)である。また、プライバシー侵害の問題を解消する決め手として、画像を暗号化し保存することにより、画像の閲覧権のきめ細かな設定を可能にするというのが、2番目のコンセプト(コンセプトB)である。

「e 自警ネットワーク」の普及を通して、「**事件の際、目撃情報が無いことが有り得ない社会**」を全国の地域社会で実現することを目指している。

【問合せ先】

群馬大学理工学府・教授 藤井雄作
(NPO 法人 e 自警ネットワーク研究会 理事長)
電話：0277-30-1756 / FAX：0277-30-1757
電子メール：fujii@el.gunma-u.ac.jp
<http://www.el.gunma-u.ac.jp/~fujii/>

太田市西本町
区長 宮崎 恭
電子メール：miya1524@otv.ne.jp